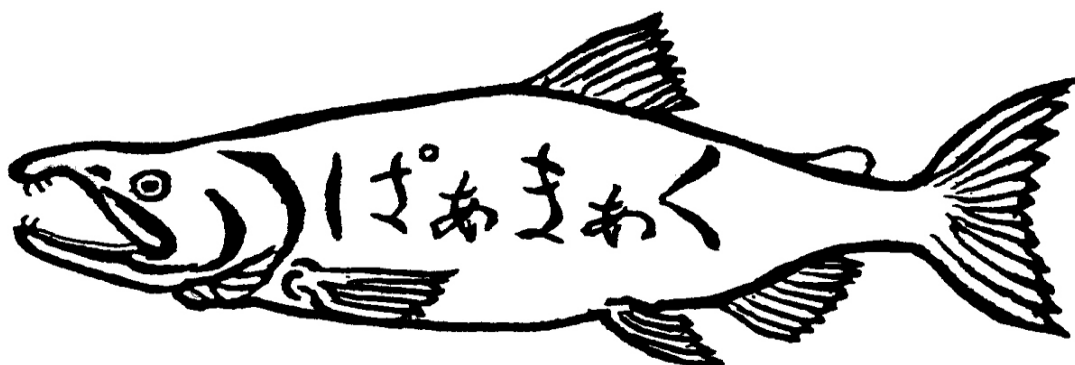


第115号



千歳サケのふるさと村教授会

令和 5年 8月20日

WEB掲載版

- ~~第36期新入会員紹介(p.3~6)~~
- 令和5年度千歳サケのふるさと村教授会総会報告(p.7~8)
- 2023年上半期採集報告(p.9)
- 支笏湖と千歳川の王子製紙発電所群(p.10~11)



発行が遅れに遅れ申し訳ございません！

本誌にあたりご協力くださった皆様に御礼申し上げます。

次回の発行は年度末を予定しております。

その他執筆のご希望は広報担当まで



AOAO開店にあたり、地下鉄やチカホに貼られたおたる水族館の広告。なんて挑発的な…！



夏見舞い申し上げます

☀️ 晩夏 ☀️

いかがお過ごしでしょうか。

春の稚魚放流、新入会員の皆様の参加、GWLに花火大会を経て夏休みとなりましたが、本年度一冊目のぱあまあくを発行します。

お待たせしました…！！m()m

札幌では、狸小路商店街に新しくできた商業施設、moyuk SAPPORO内にある都市型水族館、AOAO SAPPOROの話題で持ち切りです。夏休みということで混雑しています。

我々の繁忙期はサケが遡上する秋、これからです。

負けじと北海道を盛り上げていきましょう！

ご報告が遅れましたが、1月末、チカホにて行われたサイエンスフェスティバルに教授会として参加しました。様々なミュージアム施設と協力して催されました。我々はサケ皮によるしおりづくりレクチャーを行いました。ちなみに、お隣のブースは開店前のAOAOです。



夏季企画展！今年も楽しかったー！



7/22花火大会。
この前日に本年度初のサケが見られましたね。

令和5年度 千歳サケのふるさと村教授会 総会について

滝本樹奈

令和5年度4月9日(日)に千歳市社会福祉協議会にて行われた令和5年度総会のご報告をさせていただきます。

冒頭では、新たな局長として市役所から着任された粥川さんにお越しいただきご挨拶をしていただきました。当日の流れは右表のとおりです。

様々な議論が行われましたが、ここでは令和4年度と令和5年度の活動の流れの違いについてご報告します。

まず、事業計画です。昨年度以前はコロナ禍を理由に避けてきたイベントを積極的に行う見込みです。早速先日はGWイベントとしてスジエビすくいが開催されました。春に行われた採集の様子は寄稿記事をご覧ください。

教授会主体のイベントの中で最も重要なのが、ケリづくりです。アイヌが冬に履く鮭皮靴(ケリ)のミニチュアストラップは、我々教授会が作成し館内売店で販売されています。しかし、現在、皮剥ぎからケリクラフトまですべて行ったことのある会員はごくわずかです。

ケリ作り活動費にはその半額が支払われていましたが、教授会の主要業務であること、技術の伝承として非常に貴重であることを鑑みて、本年度からは全額支給へと規約が改定されました。

研修旅行も頻度を増す計画です。昨年度は、小樽・余市方面へニシン漁文化などを学びに、歴史的施設などの見学が行われました。ばあまあく前号の寄稿記事をご覧ください。本年度は、体調不良者の続出により残念ながら6月に計画されていた旅行は中止となりました。しかし、10月22日に、平取町の二風谷ダム、アイヌ資料館、むかわ町立博物館への旅行を計画しています。親睦を深めるだけでなく、北海道の自然や文化を学ぶための貴重な機会ですので、是非ご参加ください。自身ではなかなか行かない・行けない場所への旅行を筆者も楽しみにしています。

○総会スケジュール○

1. 開会の言葉(事務局)
2. 開会の挨拶(教授会会長)
3. 千歳水族館館長挨拶
4. 議長選出
5. 議事
 - ① 令和4年度報告事項
 - ② 令和5年度審議事項
 - ③ 令和5年度役員改選
6. 議長退任
7. 閉会の挨拶(事務局)
8. 事務局連絡事項
9. 写真撮影・昼食

さて、教授会内で依然問題となっているのが、運営方法です。1月に実施されたアンケートの結果も鑑みて、役員体制や、技術と知恵の継承を見直す必要がありますが、まだまだ模索が必要です。

運営方法の見直しは勿論、多くの方に館の魅力を知らせていただき入会者を増やすことが活動存続の鍵です。昨年度は退会された方が多く、悲しいこともありましたが、本年度は現役の4名もの方に入会いただき、熱心に活動していただいております。



改めまして、昨年度役員の方、本年度役員の方、総会にご協力いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

2023年上半期採集報告

長谷川 和

4月24日(月)、6月14日(水)の二度、千歳水族館の展示生物採集に同行しましたので報告いたします。

4月24日、日原係長に渡邊さんと長谷川の3名でスジエビの採集に赴きました。ゴールデンウィークのスジエビすくい企画の準備です。コロナ禍に入って以降は初のスジエビすくい、採集も久々です。

当日の空は厚い雲に覆われ、出発直前には千歳市内で霰が降るなど不穏な幕開け。以前もスジエビ採集に行っていた某所へ向かいます。感染症対策のためスジエビすくいが出来なかった数年の間に水族館の公用車も入れ替わり、以前のカーナビ情報が使えず少々回り道をしながら採集地点に到着。空はやや明るくなって来ていましたが、車を降りて準備をしていると遠くで雷鳴が。やはりどうにも不穏です。



ポイントは深さ30cmほどしかない細流。ウェーダーを履いて立ち込み、網で岸辺や植物の際を探って採集していきます。スジエビにはまだ早い時期ではありましたが、どうにか連休を乗り切れそうな数を確保。雨も本降りにはならず、無事に目標を達成しました。

スジエビの他にもフクドジョウやウキゴリ類、スナヤツメやヤゴなどの水生昆虫といった多くの生物を確認できました。サクラマスやサケの幼魚までいたのには驚きです。いったいどこから来たのでしょうか。

6月14日はオシロコマの採集でした。この日は日原係長、渡邊さん、船石さん、長谷川の4名にて決行。例年であれば日原さん必殺の投網が主体となりますのですが、今回は特別採捕許可の都合により使用できないため釣りが唯一の手段となります。ブドウ虫での脈釣りと言フライの二種で採集を開始しますがブドウ虫への反応が圧倒的に多く、フライにはなかなかアタリが出ません。途中、カワゲラの幼虫を捕まえて餌に使っても見ましたが興味深いことこちらも無反応。白くて大きなブドウ虫のアピール力が勝ったようでした。前年に同ポイントでルアーを用いてボウズだったので今年は使用しませんでした。賢明な判断だったようです。

天気が崩れることもなく、渡邊さんを(圧倒的な)竿頭に無事目標数を採捕し納竿。オシロコマたちはバックヤードに収容されました。まだ展示お披露目はされていませんが、いずれ館内で姿を見られる日が来るかもしれません。

採集に限らず、コロナ禍ではフィールドワークに参加させていただく機会も減少していました。今後はまた自然の中で生物たちに触れ、館に協力できる機会が増えればと願っています。



4月に採集したスジエビが大型連休を支えてくれました。



支笏湖と千歳川の王子製紙発電所群

(なぜ、千歳市街地で洪水が発生しないのか)

ヤマメ

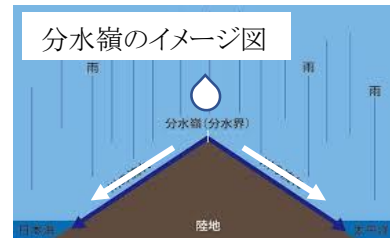
千歳川は、支笏湖から唯一流れ出る川。人口約10万人の千歳市を潤しています。

支笏湖は、今から約4万年前に火山の噴火で山が陥没し、そこに水が溜まったカルデラ湖。最大深度360m、日本最北端の不凍湖、透明度はかつて世界一と言われた摩周湖に次ぎ、日本第2位の透明度を誇る湖でしたが、現在は第4位となっています。それでも水質は、2018年まで連続11年間水質日本一と評価されています。

なぜ、支笏湖と千歳川の水質が良いのでしょうか。また、千歳市街地において洪水が発生しないのでしょうか。そこにはカルデラ湖とその水の出口の千歳川に秘密があります。

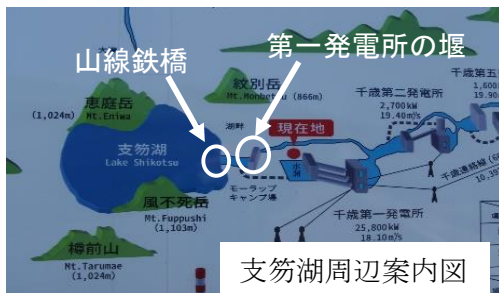


樽前山、恵庭岳、紋別岳、フレ岳などの外輪山に囲まれた支笏湖は、その尾根が分水嶺になっているため、湖に流れ込む雨水は、樹林帯の斜面分しかなく、そこを雨水が通過することで、土砂などの流入が少なく、支笏湖の水質が良く保たれてます。また、支笏湖から流れ出る千歳川も樹林帯の中を流れているため、水質が良く保たれています。



先に述べていますが、千歳川は千歳市街地において、洪水を発生させていません。それは、支笏湖自体がダム湖と同様に一時的に水を貯め、第一発電所の堰(せき)あるところで川幅が狭く、洪水調節をするダムと同じ洪水吐にあたり、流量を抑制しています。

また、美々川がありますが、分水嶺で太平洋に流れ、千歳川に合流していないため、千歳市街地に洪水を発生させない要因の一つかもしれません。



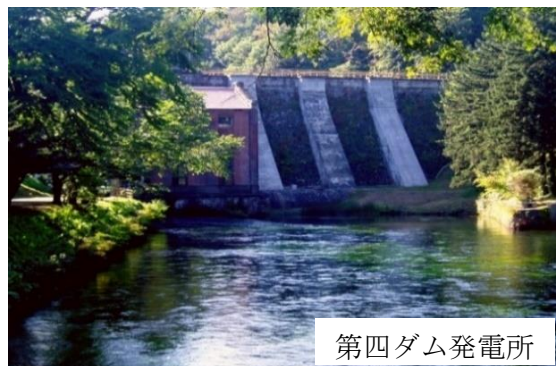
山線鉄橋は、道内現在最古の鋼橋です。1899年(明治32年)年に第一空知川橋梁として造られたトラス橋。1924年(大正13年)に支笏湖に移設され、2018年(平成30年)に、土木学会の推奨土木遺産に認定。

注意 河川を横断する工作物は、川幅が狭いところに設置することで、短くなり経済的。私は、第一発電所まで千歳川の全て確認してませんが、第一発電所の堰は、国土地理院の地形図で現地を確認し、川幅の狭いところとして、私が推測したものです。

千歳川には、王子製紙の発電所が5カ所あり、ダム形式のものが第三ダム発電所と第四ダム発電所の2カ所とその他のものが3カ所あり、王子製紙の発電のための施設です。このような形式で発電所を作ったのは、一旦、川の水位を上げ、上から下に水を落とし発電用のタービンを回す仕組みで、発電所のダム湖が土砂に埋まったとしても、上から下のタービンに水が落ち、タービンを回せる限り発電できます。この点が洪水調節ダム(治水ダム)と大きく異なるところです。洪水調節、発電、水道水、農業用水などいづれかの機能を2つ以上を備えているダムを**多目的ダム**といいます。



第三ダム発電所



第四ダム発電所



この美しい石とレンガ造りの王子製紙の発電所群は、1910年(明治43年)から1941年(昭和16年)に造られ、2007年(平成19年)に土木学会の土木遺産に選奨されてます。

近年想定外の大雨で、洪水が多発していることから、洪水調節に特化したダムが各地で計画されています。このダムは、普段川の水をそのまま流し、洪水が起きそうになると、自然に水を貯める仕組みダムで、これを**流水型ダム**といいます。

ダムは、堤体(ダム本体)の高さが15m以上で、それより低いものは堰と区別されます。

また、**砂防ダム**というものがありますが、これは洪水調節とは別もので、急峻な地形を流れる川に砂防ダムを設置することで、河道を階段状にして水の勢いを和らげ、土砂災害を防ぐものです。

右の写真は、日本海側(千歳市)と太平洋側(苫牧市)に別れる国道36号線のところで、車の奥が千歳科学技術大学で、その反対側が、新千歳空港ターミナルビルがあるところ。ここが日本で1番低い標高25m前後の**分水嶺**です。

注意 写真は、私が国土地理院の地形図を見て、車で走行し、位置を定めたもので、実際に測量して選定したものではありません。



日本で1番低い**分水嶺**付近



河川法(河川管理の原則等)

第2条 河川は、公共用物であつて、その保全、利用その他の管理は、前条の目的が達成されるように適正におこなわなければならない。

2 河川の流水は、私権の目的となることができない。

河川法の趣旨 河川水は、公のものですから、私的な水利用及び河川や河川敷地内に、工作物の設置することは、水の汚染や水不足等を招き、加えて洪水などの災害を起こす恐れがあるため、それらの行為を法律で制限するものです。

例え、自分の所有地に川が流れていても、これを勝手に手を加えることはできない厳しい法律です。